

令和4年度 地方創生交付金事業事前評価集計

令和5年10月13日南丹市地域創生会議

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
1	1	1-1 間伐材出材奨励事業 (農山村振興課)	① 6名 ② 2名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●継続的に間伐を行うことにより、林業の雇用が生まれるだけでなく、森林保全にもつながる有効な事業であると思う。今後、間伐材を活かした製品開発により力を入れられてはどうか。</li> <li>●一定の間伐材の搬出実績につながっているため有効。</li> <li>●必要な事業ではあるが、木材を使って仕事を増やす根本的な解決にはなっていないと感じる。企業誘致が方向性としてあるが、どのような企業に参入してほしいか具体的に進めるべき。</li> <li>●森林面積が広い特色からも一層の間伐促進に期待する。</li> <li>●林野や地域環境維持のため継続的な支援が必要であり雇用の安定確保につながり有効だと考えるが、間伐材の有効利用につながる施策の検討を希望します。</li> <li>●原油高が続く中、間伐促進の継続のために有効と判断する。</li> </ul>
1	1	1-2 特用林産振興事業 (農山村振興課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和3年度に続き講習会の参加者が一定数おり、地道な周知活動が行われている。今後は、担い手確保も対策が必要だと思う。</li> <li>●地域特産物として定着させる取組を通じ、栽培技術向上や生産量増産、企業誘致等の具体的な展開に向け、一定期間の継続した取組を期待する。</li> <li>●収穫までに時間がかかるため判断が難しい。生産が追いついた時に需要が減ることのないよう、ブランディングも同時に進めるべき。</li> <li>●地域特産物として定着させる取り組みを通じ、一定期間の継続した取組が必要である。</li> <li>●南丹地特産物育成として期待出来る品目であり、生産量の拡大に期待したい。</li> <li>●新たなブランド製品づくりへの取組として有効と判断する。</li> <li>●すぐに結果が出るものではないため、生産者の育成を継続し、粘り強く取り組む必要があると考える。継続することで、基本目標【1】しごとづくり そこで働く人を増やすことにつながると思われる。</li> <li>●収穫まで年数を要することからも、継続した支援が必要。生産性向上（増産）の経過に期待したい。</li> </ul>
1	1	1-3 サテライトオフィス誘致事業者等支援事業 (商工課)	① 7名 ② 2名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相談件数が目標値に達していて、着実に伸びている。相談件数が増えたとオフィス開設件数も増えると思う。</li> <li>●サテライトオフィス需要を背景に各地で同様の取組が行われているため、事業者が定着し中長期的な地域活性化につながる取組を期待する。</li> <li>●コロナによりテレワークなどの多様な働き方が加速、普及しており、今後とも積極的な誘致により地域経済の活性化を図るとともに、地元企業と誘致企業との交流促進についても期待したい。</li> <li>●目標を達成しており有効であったと考える。</li> <li>●高齢化の進行などにより、勤務の継続が難しい人の離職を防ぎ地域雇用の促進につながる。</li> <li>●空き家対策、地域雇用、地の活性化につながり有効であると考えます。</li> <li>●地域の空き家や空き施設を活用して、新たな「しごと」づくりに寄与しており有効と判断する。</li> <li>●今までは企業単位で誘致しているが、個人でも可能にする等の工夫をすれば良いのかなと思う。</li> <li>●川辺地域で企業がドローンの講習等を実施しているが、全国的にも先進的な動きをしていると思う。</li> </ul>
1	1	1-4 商工振興助成事業（創業支援） (商工課)	① 4名 ② 5名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●起業をされる方にとっては心強い支援だと思う。</li> <li>●創業支援は地域経済の活性化につながる重要な項目であり、14名の受講者による取組成果は評価できる。</li> <li>●継続した創業支援セミナー実施と創業後の新たな支援施策の検討もお願いしたい。</li> <li>●スタートダッシュとしては有効であったと考える。継続支援にも期待。移住時にもPRポイントになれば尚良い。</li> <li>●セミナー実施により、南丹市の特色を活かした仕事を創出するきっかけになり、大切である。</li> <li>●市内で創業したい意欲のある方をサポートする体制づくりとして有効と判断する。</li> </ul>
1	1	1-5 南丹市販路開拓支援事業 (商工課)	① 4名 ② 5名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新規起業に対しては有効である。販路開拓支援商談件数が減少しているため、今後の増加に期待。</li> <li>●コロナ禍で制約がある中での展示会開催であったが、商談件数や新規取引件数は一定の評価ができる。</li> <li>●一定の効果はあったと考える。活用しやすい企業が限定されるため、今後の展開の工夫に期待。</li> <li>●事業所が市外において取引の新規開拓は必要である。</li> <li>●新規取引につながっており、有効と判断する。</li> <li>●支援件数や商談件数、新規取引件数も明らかで、今後の方向性も明瞭であるため、有効であったと判断する。</li> </ul>
1	2	1-6 南丹ブランド推進助成事業 (商工課)	① 0名 ② 6名 ③ 3名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市外へのPRは有効であると思う。SNSを活用し、さらに広範囲へのPRを期待する。</li> <li>●事業目的は良く必要なこととおもうが、2事業者のみの活用となったことから継続的な取り組みにより効果を高めるためには一層の工夫が必要と考える。</li> <li>●有効な内容の事業であったと考えるが、募集内容が厳しく、参加できる事業者が限られたことが残念。</li> <li>●事業目的は良く必要なことと思う。活用事業者が少ないが、継続的な取組により、一層の工夫が必要である。</li> <li>●調書だけでは、どのようなブランド産品を、どのような場で、どのような方にアピールでき、どのような効果があったのか、明らかではないが、南丹ブランドを遊求していく上で、一定、有効であると判断する。</li> <li>●継続して、南丹市内外へなんたんブランドを発信する必要があると思うので、どちらかといえば有効であったと判断する。</li> <li>●南丹ブランドの定義についての議論があつてから推進していくべきで、事業の順番が違ふように思った。</li> </ul>

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
1	2	1-7 ものづくりのまち推進事業 (地域振興課)	① 4名 ② 4名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 担い手確保の為、子どもへの体験教室実施は有効である。</li> <li>● 数多くの展示会等を開催し、ものづくりの楽しさや物を大切に暮らすについて考える機会を提供できたことを評価する。</li> <li>● 南丹市内の大学ともうまく連携を図ることで地域産業の担い手となる人材育成、人材確保にもつながると思う。</li> <li>● 地縁の工芸団体があるのは珍しいので今後も活かしていくべき。伝統工芸大とも連携できたら、より目標にあった取り組みになりそう。</li> <li>● ものづくりは実際に体験しないとわからない。体験の場が増えていけばよいと思う。</li> <li>● 子どもたちに伝統工芸に触れる機会を提供しており、将来の担い手や、理解を深める上で、一定有効であると判断する。</li> <li>● 伸びしろがあるという意味で、今後に期待して②としたい。</li> </ul>
1	2	1-8 小規模企業支援事業 (商工課)	① 7名 ② 2名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価調査にも記載されているように小規模企業の経営安定化には必須である。</li> <li>● 小規模事業者の経営安定化、事業拡大を間接的に支援する施策として有効である。</li> <li>● 中小企業の直接的な支援になっており有効であったと考える。</li> <li>● 小規模企業の経営の安定・事業拡大を支援する施策として有効である。</li> <li>● 資材・エネルギー高騰、人材不足、コロナ禍を経た影響など、厳しい経営環境にある小規模事業者に寄り添う支援として有効と判断する。</li> </ul>
1	2	1-9 ものづくり産業雇用支援助成事業 (商工課)	① 4名 ② 5名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 製造業の人材確保には有効である。市民の市内就職率が2021年度より下がっているため、回復を期待する。</li> <li>● 市内雇用の促進、定住の促進につながっている、直接的な市民の雇用数増加に寄与する事業として評価できる。</li> <li>● 予算のボリュームに対して活用された人数が少ない。PR方法を再考されてはどうかと思う。</li> <li>● 市内雇用の促進につながっている。雇用数増加に寄与する事業である。</li> <li>● 市内雇用定住促進に繋がっており、有効。</li> <li>● 資材・エネルギー高騰、コロナ禍を経た影響など、厳しい経営環境にある製造業事業者の従事者の確保への支援として有効と判断する。</li> <li>● 地元雇用を促進するためには、有効な支援であると考え。</li> <li>● 転出数を低下させる為にも、地元雇用率の更なる向上に期待する。</li> </ul>
1	2	1-10 商工振興助成事業（商店街活性化） (商工課)	① 2名 ② 7名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市の支援があることにより、商店街の様々なイベントが新たに企画されるのではないと思う。</li> <li>● 商店街活性化は多くの地域で大きな課題となっている、コロナ禍において制約もある中、対策を講じつつイベントを実施できたことは評価できる。</li> <li>● 市内事業者が参加しやすい内容で有効であったと考える。しかし毎年同じ内容になっているので、事業承継という視点では、新しい取り組みを考えていく時期にあるのではないと思う。</li> <li>● 商店街の活性化は今後の市の発展において必要不可欠である。イベントを賑やかにする目的で助成を行うことは大切である。</li> <li>● まちづくり事業として、商店街の魅力を伝える事業として、一定、有効であると判断する。</li> <li>● 商工会のさらなる活性化に期待する。使い道（活動内容）を色々工夫していただきたい。</li> <li>● 亀岡市で実施されていた商店街のイベントのように、お客さまと交流し、喜んでいただくことで、各商店さんの誇りと自信を呼び覚まし、ファンをつながることが期待できる。</li> </ul>
2	1	2-1 空き家流動化対策事業 (地域振興課)	① 8名 ② 1名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 空き家バンク登録件数は2020年以降増加しており、目標数値にも近づいている。この点から、有効であったと思う。</li> <li>● 空き家物件の掘り起こしをはじめ補助金交付、定住ガイドブック発行等の具体的かつ有効な事業である。空き家バンクも認知されよく利用されているように感じる。定住促進に繋がっている。</li> <li>● 空き家対策は地域ぐるみの取組は有効であるため、自治体等の役割が大きく積極的な取組を期待する。</li> <li>● 必要な事業で有効であったと考えるが、登録活用件数が、移住希望者に対して少なすぎると感じる。必要な人に情報が行き届いていない可能性が高いので、掘り起こしを加速できるような体制を考えていくべき。</li> <li>● 地域振興に大切な事業であり、地域の課題として広く地域と協働して事業に取り組む必要がある。</li> <li>● 空き家登録件数の増加にも表れ、有効であると思います。空き家になる予定の住居者に対する登録事業の広報と相談窓口設置など、環境や住宅が荒廃するまでの対策が必要ではないかと思う。</li> <li>● 移住希望者に比して、活用可能な空き家が不足する中、有効な施策であると判断する。</li> <li>● 大変画期的な取り組みであると思うので、継続すべき。空き家バンクの登録、活用の流れが、うまく機能しているように思う。</li> </ul>
2	1	2-2 定住促進サポートセンター運営事業 (地域振興課)	① 9名 ② 0名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 移住相談件数が過去3年に比べ最も多く、サポートセンターが認知されてきているのではないと思う。今後基本目標達成につながると思う。</li> <li>● 定住促進サポートセンターの設置効果は大きく、移住相談件数や空き家バンク活用件数にも寄与している。地域と連携した移住者受け入れ態勢の更なる強化に期待する。</li> <li>● 必要な事業で有効であったと考えるが、活用件数が、相談件数に対して少なすぎると感じる。必要な人に情報が行き届いていない可能性が高いので、掘り起こしを加速できるような体制を考えていくべき。</li> <li>● 新しい人の流れを作る目標においても大切な事業である。地域と連携した移住者受け入れが必要である。</li> <li>● 居住者と移住者にとつても必要な事業あり有効。</li> <li>● 移住・定住のワンストップ窓口として機能しており、有効な施策であると判断する。</li> <li>● サポートセンターの常駐職員がいることで、定住・移住促進に効果があったと思われる。</li> </ul>

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	1	2-3 移住者起業支援事業 (地域振興課)	① 6名 ② 3名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ハード面での費用補助は移住者にとって大きなサポートになる。移住促進に有効である。</li> <li>●地域経済の新たな担い手となる移住者起業支援は地域活性化のためにも重要であり、10件の補助金交付件数は評価できる、またそれにより10世帯の移住者の定着につなげられており、空き家の流動化にも効果がある。</li> <li>●必要な事業であったと考える。かけている予算が大きいため、移住時のPRポイントとしてもっと活用すべき。</li> <li>●地域の担い手となり得るUターンも対象に入れていただくと良いように思う。</li> <li>●定住促進や地域振興に活用することは放置空き家対策と定住促進の双方に効果のある事業である。</li> <li>●地域に新たな起業家を呼び込む事業として有効。</li> <li>●移住者が起業する際の支援として、有効な施策であると判断する。</li> <li>●空き家の有効活用と企業支援を行うことは、定住・移住に大きな効果があると思われる。新規事業ということであるがぜひ継続してもらいたい。</li> </ul>
2	1	2-4 おためし地方暮らし推進事業 (地域振興課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●移住検討者に南丹の魅力を知ってもらう良い取り組みである。</li> <li>●入居実績に対する参画自治体の動向等を見たうえで評価となるが、JRの強力な情報発信力を活用して南丹市のPRにもつなげられるものであり、南丹市の魅力発信には効果があったと思う。</li> <li>●移住の検討に繋げることができ一定の成果はある。おためし移住者が実際の移住につながるよう、おためしを始めた人にヒアリングを行うなどして、より良い事業になるように期待。</li> <li>●移住を検討する直接的な取組である。</li> <li>●JRと連携した事業として、京阪神との近接性を活かした取組として有効と判断する。</li> <li>●もう少し南丹地域に気軽に触れられるものがあってほしいのかと思う。</li> </ul>
2	2	2-5 総合振興計画進行管理事業 (企画財政課)	① 6名 ② 2名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新しい視点で南丹市の魅力を発見するために、若者の視点、意見は必要である。</li> <li>●外部人材（大学生）の参画により新たな視点での事業実施をはじめ工夫をこらした取組である。回答率向上に期待し、南丹市のPRと誘客への取組につなげていただきたい。</li> <li>●市のことを深く知って意見をもらうことができる事業で有効と考える。</li> <li>●大学生の新たな視点で、まちづくりに関わる機会を増やすことが大切である。</li> <li>●大学と連携して、学生の視点から見た魅力の発見、整理、関係深化に向けて、有効であると判断する。</li> <li>●まちづくりに若い力を活かすのは大いに賛成。アンケートがどのように南丹ファン獲得につながっていくのかがわかりにくい。</li> </ul>
2	2	2-6 シティプロモーション推進事業 (秘書広報課)	① 4名 ② 3名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●来場者数を見て有効であったと思う。FMラジオでの告知であれば、FM京都以外での告知も検討されても良いかと思う。</li> <li>●南丹市としてのPR活動にはPR対象が限定的にならざるを得ず、より有効な媒体活用に向けて思考を継続された。</li> <li>●FM放送を活用し内外にPRできる良い事業であったと考える。</li> <li>●南丹市としてのブランド力を高めるにあたり、南丹市の価値やプロモーションの方針を定めることも求められる。</li> <li>●南丹市のイメージや、認知度を向上させる為にも必要である。</li> <li>●定員の2倍以上の参加応募もあり、有効な施策と判断する。</li> <li>●内容的に効果があったと思われる。「○○のまち」を、テーマをもって徹底的に継続させ、イメージを定着させた方が良いと思う。</li> <li>●子育て世代をターゲットにしているのであれば、招待席や子連れでも行ける、というのがもっと打ち出されていれば良かったと思う。ラジオではそれが分からなかった。</li> </ul>
2	2	2-7 山陰本線南丹市広告宣伝事業 (地域振興課)	① 3名 ② 5名 ③ 0名 ④ 1名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●広告掲載エリアの選定が適切である。</li> <li>●広域にPRできる取組として評価できる。コスト削減にも工夫されているが、山陰本線の利用促進という観点から低コストを意識しつつより一層効果的な取組に対し工夫が必要と考える。</li> <li>●観光交流だけでなく、ふるさと納税や移住促進を併せてのPRに期待。</li> <li>●広告掲出の効果測定がしづらいため、判断が難しい。記載されているのは実施内容であり、アウトプットとは言い難い。</li> <li>●移住を考えている人には、南丹市は魅力的だと思うので効果があると思う。</li> <li>●JRと連携した利用促進対策として、有効な施策であると判断する。</li> <li>●京都駅で広告を出すすと近所すぎる。東日本で向こうの広告が並ぶ中で、南丹市の広告があると結構惹かれるのではないかと思う。</li> </ul>
2	2	2-8 商工振興助成事業（商工会 イベント補助） (商工課)	① 2名 ② 6名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和4年度は新型コロナウイルス感染症防止の規制がある中での事業活動になったかと思うが、可能な範囲で様々なイベントを実施し、地域活性化につながったと思う。</li> <li>●地域と協力・連携した事業の実施は、地域活性化に不可欠であり継続的な取組に期待する。</li> <li>●目標が新しい人の流れなのに対し、実施内容が市民目線になっており少しブレがある。目標を市内の実施事業者にも共有して行うとより良い事業になるのでは。※大堰川フェスティバルの実施は9/23</li> <li>●目的が経済の活性化ということなので、アウトプットには経済効果に係る数値を記載いただきたい。</li> <li>●適正規模での実施に努め、市外からの多数の来訪を成果とするよりも、地域住民の満足度に着目していく必要がある。</li> <li>●商工振興、市民満足・シティプライドに資するイベントとして有効であると判断する。</li> <li>●大堰川フェスティバルについて、来場者は多かったが、オーバーキャパにもならなかった。ドローンを飛ばしたり、工夫されていた。</li> </ul>

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	2	2-9 観光宣伝事業（その他宣伝事業） （観光交流室）	① 5名 ② 3名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SNS活用で効率的にプロモーションが出来る。</li> <li>●関係団体とも連携し、観光のPRに対し幅広く事業を実施することができた点を評価する。</li> <li>●コロナ後の旅先としてのPR活動は有効であると考える。</li> <li>●幅広く事業を実施することができた。コロナ禍の中、大変だったと思う。今後に期待する。</li> <li>●各地域・スポット・文化等に焦点を当てたフォトコンテストを通じた魅力発見・発信、2市1町との連携促進、南丹市全体としての観光ビジョン策定に向けた取組として有効であると判断する。</li> </ul>
2	2	2-10 観光宣伝事業（美山DMO補助） （観光交流室）	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後コロナ前の観光客が戻ってくると思われるが、観光客を維持していく為にプロモーションに加え、公共施設（トイレ等）の整備も必要になってくると思う。</li> <li>●美山DMOの様々な取組が南丹市の観光振興に大いに繋がっている。ベストツーリズムビレッジに選定されるなど国内に留まらず海外からの評価も受けており、南丹市への観光誘致のためにも必要性は高い。</li> <li>●必要な事業であったと考える。南丹全体の観光へ牽引を引き続き期待。</li> <li>●美山の観光まちづくりとして、地域の合意形成、国内外への情報発信を戦略的に進めており、有効である。</li> <li>●国連から「ベストツーリズムビレッジ」として認定されるなど、地域の暮らし文化に焦点を充てて、地域の方々とともに、これまでの観光まちづくりを発展させていく取組を推進しており、有効と判断する。</li> </ul>
2	2	2-11 観光協会事業 （観光交流室）	① 2名 ② 6名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各協会の横のつながりが大事だと思う。</li> <li>●各地域における積極的かつ多様な取組は評価でき、各地域での特色を活かした観光振興事業の一体化に期待する。</li> <li>●必要な事業であったと考える。横連携はもっと必要。</li> <li>●レベルアップと知名度の向上を図るためにも、一体化する事業である。</li> <li>●旧町ごとに存在する観光協会・DMOの連携促進を通じて、一層、各地域の魅力に磨きをかけて、テーマ性をもった周遊・レポートを促進するための取組として有効であると判断する。</li> <li>●それぞれの観光協会が頑張っておられる。一体感をもって、南丹の宣伝効果が上がるよう連携されることに期待する。</li> <li>●なかなか難しい課題の中、少しずつ進んできている。1年単位ではピンとこないが、5年10年を振り返ると変わってきている面が多いと思うので、引き続き連携が課題。</li> </ul>
2	2	2-12 観光文化資源活用推進事業 （観光交流室）	① 2名 ② 7名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●作製されたコンテンツの発信が重要だと思う。</li> <li>●期間が限定された事業であり、引き続き内容を精査したうえで事業支援を検討し、対外的なアピールにつなげていきたい。</li> <li>●デジタル化がより時代に合った内容となるよう精査して進めることが必要。</li> <li>●中長期的な視座から、取組を進められており、大切である。</li> <li>●地域の歴史文化、生活文化の価値の掘り起こし、人材育成、アーカイブ化などを文化庁事業を活用して推進しており、有効な施策であると判断する。</li> </ul>
2	2	2-13 スポーツ拠点づくり推進事業 （市民協働室）	① 8名 ② 0名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スポーツ大会を通じて、南丹市への人の流れができるとともに、市外からの大会参加者を増やすことによりファン獲得につながる。（自転車やトライアスロンなどは風景を見ながら競技することができるので良いと思う。）</li> <li>●自転車競技やトライアスロンなどの地域のスポーツ競技の知名度も上がってきており、南丹市への観光交流や地域振興において評価できる。</li> <li>●スポーツ拠点として定着されつつあり有効。</li> <li>●民間の支援も得ながら、地域の自然環境や人材を活かした取組として、全国から多くの参加者の来訪があり、有効な施策であると判断する。</li> <li>●これらの大会は継続することに意義があると思うので、南丹ファン獲得のために工夫して続けてほしい。</li> </ul>
2	2	2-14 歴史遺産振興事業 （社会教育課）	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市外での展示会からの南丹市への誘客方法が重要だと思う。</li> <li>●イベント開催により市内外からも多くの来館者を迎えられることは評価できる。これまでの貴重な展示物については常設展等でその魅力や価値を発信してほしい。</li> <li>●充実した内容だったと感じるが、集客を他事業と連携して行うことができればより有効ではないかと思う。</li> <li>●魅力を発信するには、大変良い事業である。</li> <li>●文化庁事業とも連携して、人材育成、コンテンツ紹介を行っており、有効と判断する。</li> <li>●ギャラリートーク等は、展示企画をさらに効果的にアピールできると思われる。</li> </ul>

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
2	2	2-15 <b>山村留学事業</b> (社会教育課)	① 9名 ② 0名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●山村留学に参加した児童および家族は南丹市の事は忘れないだろうし、そこから南丹市の話題が周囲に広がっていくのではないかと思う。</li> <li>●幅広い地域から数多くの児童を受け入れ。新たな関係人口の創出につながり、地元行事への積極的な参加等による交流もできたことから効果的な事業であった。本事業は終了となるが、この成果を活用できるような新たな取組に期待したい。</li> <li>●時代の先を行く良い事業であったと感じる。事業終了の大きな理由が予算と実施者の確保だったが、実施者を公募したり、費用は参加者が負担するなどの工夫をすれば続けられたのではないか。</li> <li>●長い間素晴らしい都市と山村の交流のできる事業に期待していたのに終了となり残念だ。</li> <li>●25年間にわたり、都市児童と保護者、山村児童と住民との交流を図り、濃厚かつ世代を超えた関係人口を生み出してきており、有効な施策と判断する。</li> <li>●事業が終了することは非常に残念。永年のご関係者の尽力とその成果に感謝する。</li> <li>●事業終了は残念と思う。</li> </ul>
4	1	4-1 <b>集落活性化支援事業</b> (地域振興課)	① 6名 ② 3名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●後継者、担い手不足で集落の伝統行事が継続できない地域も増えている。活性化に必要な地域の行事・取り組みを継続していけるよう財政支援や支援員の配置を行うことにより、活性化につながる有効な事業であると思う。</li> <li>●限界集落、準限界集落での地域活動活性化について多くの地域の再生事業への支援実績が評価できる。</li> <li>●有効な事業であるが、予算だよりになってしまわないような工夫も必要に感じる。</li> <li>●少子高齢化が進み、地域が抱える課題の解決に向けて必要である。</li> <li>●限界集落・準限界集落を対象に、集落の自立をめざため、有効な施策と判断する。</li> <li>●各集落が自ら活性化に取り組むことは、南丹市にとって重要なことである。支援を継続すべきと思う。</li> <li>●他所の市町村に勧められるかまでは分からないが、南丹市に必要性があり有効性を考えて、半分援助していただいて南丹市で良かった。</li> </ul>
4	1	4-2 <b>生活路線バス等運行事業</b> (地域振興課)	① 7名 ② 2名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●更なる周知活動が必要だと思う。</li> <li>●公共交通の空白地を埋め、市民の交通手段確保の取組として評価する。</li> <li>●必要な取り組みである。電車との接続が改善されたり、朝や夕方など通勤通学時間にも利用できるものになれば、もっと利用が増えると思うので検討してほしい。</li> <li>●高齢者にとっては、公共交通の充実を図ることは不可欠である。</li> <li>●市バス利用者が減少する中で、交通弱者を取り残さない取組が、基本目標4に寄与していると思う。</li> <li>●公共交通空白地域にデマンドバスを運行し、市民の交通手段を確保しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●公共交通の空白地が拡大しないよう、現在の公共交通利用促進事業等が必要であると思う。持続可能な公共交通網の整備が図られることを期待したい。</li> </ul>
4	1	4-3 <b>健康づくり推進事業</b> (保健医療課)	① 6名 ② 2名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康都市を目指し、健康ポイント制度など市民が参加しやすい工夫がされていると思う。</li> <li>●短期的には結果が見えにくい事業といえるが、ICT活用により有効な事業展開が期待できる。今後の事業参加者数増加による事業拡大に期待したい。</li> <li>●市内の様々な立場の人と連携した良い事業だと思う。</li> <li>●事業参加者数のうちアクティブユーザーの割合がわからないと評価が難しい。事業目的が寿命の延伸であるならば、結果もそれに対応するように記載いただきたい。</li> <li>●市民に広くいきわたる健康づくりへの取組である。健康、食育レシピコンテストは小中学生の参加で美りある取組である。今後も継続してほしい。</li> <li>●ICTを活用しコロナ禍でも個人で取り組めるため、市民の健康づくりの推進に寄与しており、有効な施策と判断する。</li> <li>●事業として継続すべきと思う。それぞれの実施内容について、PRにもう一工夫が必要ではないだろうかと思う。市民が取り組みやすい工夫をすべきと思う。</li> <li>●健康寿命の延伸を期待し、継続的な取組が必要。</li> </ul>
4	1	4-4 <b>南丹市版地域包括ケアシステム推進事業</b> (地域医療室)	① 4名 ② 3名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●少子高齢化が進むなかで、誰もが安心して暮らせる社会づくりは欠かせない。世代関係なく住民同士が支えあう地域環境づくりに向けた取り組みは有効である。</li> <li>●健康づくりの推進、安心・安全に暮らせるまちづくりに寄与するものとして、ICT導入による効率的ケア体制の構築に向け、関係機関等との連携や地域との関わりを実施した取組は評価できる。</li> <li>●事業の成果が市民にもわかりやすく伝わり安心につながると良い。</li> <li>●住み慣れた地域で、安心して暮らせる地域づくりのため、さらに発展させる事業であると思う。</li> <li>●住み慣れた地域で、安心してつながりながら暮らせるまちづくりに向けて、有効な施策と判断する。</li> <li>●大変必要な事業であると思うが、具体性に欠ける（具体的にどのように実施され、今後の方向性につながっていくのか、よくわからない）。</li> </ul>

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
4	1	4-5 中心市街地活性化事業 (商工課)	① 0名 ② 9名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●チャレンジショップ、日替わり店舗の開設により、起業促進につながると思う。さらに賑わいを創出するためには来街者を増やすことが不可欠で、イベント広報活動が重要だと思う。</li> <li>●まちなかの商店や団体へのサポートは必要であるが、それにとどまらず中心市街地の空き店舗の活用、起業促進、雇用促進につながるよう取組継続を期待する。</li> <li>●今後の方向性に期待。</li> <li>●空き店舗の増える中、大切な事業である。</li> <li>●起業支援、空き店舗紹介、活性化イベントのサポートを通じて、地域活性化に資する施策として、一定、有効であると判断する。</li> <li>●必要な事業だと思うが、中身が分かりにくい。</li> </ul>
4	2	4-6 小学校跡施設活用推進事業 (総務課)	① 3名 ② 4名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域コミュニティ形成の場として、小学校跡地を利用したイベントや活動は非常に良い。高齢化が進むなかで、地域の方が活動しやすいように支援することは有効である。</li> <li>●小学校跡地活用は簡単に解決できるものではないが民間事業者と地域の連携により成功しているケースも見られる。効果を検証し、より有効な事業実施に向けて取り組まれることを期待する。</li> <li>●持続可能な内容になるような協議に使っていくべき。</li> <li>●地域活動が小学校跡地施設を拠点にされていることは有効である。</li> <li>●地域団体が主体となって廃校となった施設を拠点として利活用を推進しており、有効であると判断する。</li> </ul>
4	2	4-7 市民協働推進事業 (地域振興課)	① 5名 ② 3名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民自ら課題解決案の提案ができる機会をできるだけ増やす事が重要。そのための活動に対する支援は有効である。</li> <li>●地域課題解決のための市民活動に対する交付金として意義あるものとする。団体が活動を継続して取り組むことができるよう対応願いたい。</li> <li>●目的を達成しており有効。</li> <li>●活動交付金が3年間という期限であり、継続して取り組むことは無理である。</li> <li>●市民団体が主体となって地域課題の解決に資する事業を支援しており、有効であると判断する。</li> </ul>
4	2	4-8 なんたん中間支援センター運営事業 (地域振興課)	① 4名 ② 5名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相談窓口としての役割りは非常に大きい。まちづくり活動交付金を受けたいが、どのように進めればよいかわからない方もいる。中間支援センターがあることで、気軽に相談できる環境ができています。</li> <li>●多様化する地域課題の身近な相談窓口として、南丹市まちづくりデザインセンターの役割は大きく、来館者数、相談件数等の実績を評価する。また経験豊富なNPOが運営することで実効性も期待できる。</li> <li>●相談窓口として有効。</li> <li>●地域課題やニーズの変化に対応した中間支援センターへの支援を通じ、地域をけん引する人材の掘り起こしと育成に寄与しており、有効であると判断する。</li> </ul>
4	2	4-9 大学等連携推進事業 (地域振興課)	① 8名 ② 1名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学生がまちづくりに対し様々な提案をすることにより、新たな視点でまちづくり、課題解決が行え、学生にとっても、まちづくり活動に取り組むことにより知識、技術の向上が図れるので、相互に利益のなる事業である。</li> <li>●大学と地域、学生と地域の連携を行う本事業は、地域課題の解決と市民活動の活性化につながるという点で意義は大きい。</li> <li>●目的を達成しており有効。</li> <li>●地域の大学や専門学校に通う学生たちが地域住民と関わることが少ない中で、大学等の特徴を生かした取り組みは、とても有効である。</li> <li>●京都府内に拠点をおく大学などがまちづくり活動を行い、地域とのつながりに資することから、有効であると判断する。</li> <li>●高等教育機関が多い南丹市だからこそ、学生を巻き込んだ様々な取り組みを活性化させる必要があると思う。</li> <li>●大学に近い立地があるので、大学に使いやすい制度や上手にPRをすればもっと引き出せるのではないかなと思う。</li> </ul>
4	3	4-10 小学校跡施設管理費 (地域振興課)	① 4名 ② 4名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●廃校にはなったが、みんなの思いでたくさん詰まった小学校施設が別の形で活用されることは地域住民にとっても嬉しいことだと思う。施設の維持管理を継続していくことで、地域のシンボルとして残っていく、小学校跡地での活動が地域コミュニティ形成にもつながっていくと思う。</li> <li>●地域振興会などの地元組織が施設管理・運営を行い、地域住民のために小学校跡施設を有効に活用していることから本事業は評価できる。こうした活用実績をもとに、より一層効果的な活用方法の検討親実施等につなげていきたい。</li> <li>●持続可能な内容になるような協議に使っていくべき。</li> <li>●住み慣れた地域の資源を活かし、地域の交流を通して郷土愛に繋がればよい事業である。</li> <li>●地元組織を指定管理者として廃校となった小学校跡地施設を活用しており、有効であると判断する。</li> <li>●やっている熱意はよく分かるが、これを長期的に維持できるのかが見えてこない部分がある。</li> </ul>
4	3	4-11 国定公園推進事業 (環境課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一定の来館者数があり、国定公園の保護、維持には必要な事業であると思う。</li> <li>●ビジターセンターの来場者数や開催されるイベント等の活用状況は当センターの運営が地域貢献に大きく寄与していることを表している。魅力ある事業の展開により、さらなる利用者の増加につながることを期待する。</li> <li>●予算に対してもっと活用が進むと良い。</li> <li>●近隣自治体や府と連携し、「国定公園」を活かした様々な取組に期待する。</li> <li>●京都丹波国定公園ビジターセンターの運営を通じて、自然と文化が融合した里山文化の発信を行っており、有効と判断する。</li> </ul>

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本 目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	確定	評価の理由
4	3	4-12 <b>森の京都推進事業</b> (観光交流室)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●周辺自治体と連携しながら、森の京都を盛り上げていく必要があると思う。</li> <li>●市単独規模ではなしえない成果が期待できる京都府や府内自治体との連携による取組は効果的な事業展開につながるものであり評価できる。</li> <li>●南丹市にとって必要な情報が得られるよう、実施内容のリクエストをもっとしても良いのではないかなと思う。</li> <li>●観光交流室や各町の観光協会やDMOと連携した事業実施を期待します。</li> <li>●市単独規模では成し得ないものが多い大切な事業である。</li> <li>●観光を通じた地域活性化をめざし、府及び関係市町で設置した森の京都DMOとの連携により、「次代につなぐ連携の地域づくり」として有効であると判断する。</li> </ul>